

La Informilo de NEC

センター通信

第272号

2014年2月17日発行

名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号
郵便振替 00840-8-40765 [名古屋エスペラントセンター]
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/>
編集部 saluton@mac.com



「センター通信」272号の目次

学生《青年》E運動の盛衰.....	森田 明.....	2
Mi vizitis Esperantajn aranĝojn en Koreio.....	Hideko Huĝimoto.....	4
アイスランドを訪ねて.....	山本由紀子.....	5
韓国のエスペランチスト、NECを訪問.....	前田可一.....	8
TAGIĜO というCD.....	山田義.....	8
Zamenhofa Festoの報告.....	猪飼吉計.....	10
La gaja migranto.....	山田義.....	11
大杉榮、エスペラント、聖書、名古屋など.....		12
『住まいの健康生活術』とエスペラント.....	鈴木善彦.....	14
La Revuo Orienta 1934より.....		15
2014年の名古屋エスペラントセンター総会のご案内.....		16



森田 明

学生《青年》E運動の盛衰

"Obstine antaŭen! La nepoj vin benos se vi pacience eltenos".

(Zamenhof : "La Vojo")

★日本の大学E会を糾合する組織として1931年「全国学生E連盟」が発足しますが、詳細は不明です。第二次大戦後は1950年が節目。大阪学生E連盟(OSELO)と東京学生E連盟(TELS)があいついで結成され、翌51年の日本大会学生分科会は「地方学生連盟」を討議しました。ここでいう「地方」とは東京・新潟・大阪・福岡の4ブロックのこと。当時の新潟大は医学部とその附属看護学校を中心に強力なE会を誇っていたらしいのです。

★1952年には阪大、名大(!)、京大のE会が呼びかけて「学生E協議会」が発足。4月には各大学代表25名が京大に結集、日本学生E連盟(Japana Studenta Esperanto-Ligo: 略称JELS)の設立について合意し、同年の日本大会でJELSが誕生します。

★できあがったJELSの参加メンバー校や会員数、役員などの具体的な事実、資料が散逸しているため分かりません。断片的に残っているのは、持ち回りでB5版の謄写版刷り機関誌ANTAŬENを発行していたこと、宮崎大から「全国学生自治会連合会(全学連)はEを国際通信の共通語とせよ」との要求が出たこと、55年には京大Eが「Eを使った原爆反対運動により、自治会内最優秀団体賞を受けたこと、59年に国際学生E連盟(Internacia Studenta Esperanto-Ligo)に加盟したこと。全会員数が800名に達したことなどです。

★59年にはウィーンで開催の国際青年学生祭典にJELSから委員長(日下部謙三。慶應大)はじめ3名が参加し、日本の学生の現状を綴った文書や機関誌ANTAŬENを参加者に配布しました。国際青年学生祭典とは、ソ連の対外諜報部の肝いりで社会主義圏を中心に開催されていた文化行事ですが、57年のモスクワ祭典では、戦後初めて200名を超える東欧のエスperanティストが姿を見せ、スターリンの独裁を脱した雪解けのソ連でやっとEの存在が公認されたか、と話題を呼んでいたものです。

★ところが、帰国した委員長を待っていたのはJELS執行部に対する激しい批判でした。内容はこれまた不明ですが、個人的な確執が強かったようです。日下部氏は委員長を辞任、そのまま卒業しE界を去りました。JELSはここで事実上頓挫してしまうのです。

★それよりすこし前、世界E大会(Universala Kongreso de Esperanto)の東京招致を決定したJEIは、その準備の一環として61年7月長野県野辺山で、「会話力錬成合宿」を開きました。全国から集った28名のうちの半数以上は学生でした。この年日本大会でJELSは再建されます。働きかけたのはこのかん《解散》《再建》を二度にわたってくり返してきたTELSです。以後、最終的に解散する1965年まで、JELSの役員はほとんどがTELS会員が兼ねるという状態が続きます。

★「東京偏重」に反発したのが関西の諸大学でした。中でも奈良女子大が提唱し、1961年に成立した関西学生E連盟(KLES)は、静岡以西の大学約30校 300名近くの会員を擁して、TELSと張り合いました。

★野辺山での「錬成合宿」が契機となって「合宿ブーム」が起きます。その中心は学生でした。背景には全国各地に「国民宿舎」のような安価で安全な宿泊設備が整ってきた事実があります。JELSは62年から65年まで三ヶ日、焼津、石川、御殿場などで20～27校、100名前後の学生を集め、一週間にわたる合宿を組織しました。TELSや関西エスペラント連盟、それに各大学なども独自に合宿を開催したので、1年間にこうした催しに2回、3回と参加する学生も珍しくなくなりました。集中的な語学学習に加え、議論や娯楽の場も十分に設けられていたせいで、Eを臆することなくふつうに話す風潮が生まれたのは、合宿がもたらした大きな成果でした。中には一生の伴侶にめぐり逢った人も十指に余ります。

★東京での世界大会は、期待されたようなインパクトは日本の(学生)E界に与えませんでした。JELSの執行部はKLESとの組織問題の紛糾でこの年10月解散します。2年後の67年、日本大会での学生分科会はJELS再建を期しますが、実現は困難でした。

★JELSの残務整理をしたのは、鈴木弘氏率いる宇都宮大E会でした。Bulteno de JELS 40号(最終号)を刊行し、68年には宇都宮大の単独主催で「全国学生E合宿」を栃木県で開催、27大学113名もの参加を得ています。JELSの欠点を洞察した鈴木氏は、京大へ転学するや、独自の考えに基づく新しい学生E会としてロンド・ハルモニア(RH)を立ち上げ、会員のエスペランティスト意識を向上させながら、他大学への積極的な宣伝活動にのりだしました。RHは全国40大学400名以上の会員獲得に成功しています。しかし獅子奮迅の努力を重ねた鈴木氏はこのあと不思議なことに忽然とE界から姿を消しました。

★一方TELSは68年に解散しますが、各大学のE会はしばらく余勢を保っていました。68年3月発行のTELS名簿にはまだ15大学284名もの会員が記されています。しかし新入生の獲得が年ごとにむずかしくなる一方、上級生が卒業していくので、会はどこも衰退にむかいます。KLESも1974年には消滅しました。RHも90年台にはいと次第に大学の拠点を失い、現在は社会人を中心にした、こぢんまりした団体として生き延びています。

★2013年12月現在、日本の大学に存在するEグループは北海道大、筑波大、京大の3校のみです。互いにツイッターで繁く交信している様子にすこし安堵はしましたが。

★どうしてEはかくも凋落したのか! 「世界」とか「国際」などという言葉がまだ半ば想像の彼方にたゆたっていた1960年台半ばまでは、学習容易、公平、中立を謳うEに惹きつけられた人は数多く、ザメンホフはユネスコが顕彰した世界の偉人100名のひとりでした。ところが1989年以降、グローバル化、つまり英語化の猛烈な嵐が世界を吹き荒れました。「世界をひとつの言葉で、という念願は英語によって実現された。実生活が言語問題を解決した。だからぼくはEをやめたんだよ」これは故国分敬治先生から

直々に聞いた言葉です。E の理想を一顧だにしなくなった世相に何と言って反論できるでしょうか。

★機関誌ANTAŬENのバックナンバーなど、学生E活動の貴重な資料を几帳面に蒐集している畏友東海林信行君はこう言います。「自分には不治の病が4つある。糖尿病、アル中、腰痛、それにエスペラントだ」。彼もまた他人を説得する努力のむなしさを知りつつ、自分が生涯かけてなぜこれほどEに惹かれるのかを表現しあぐねているのです。Eの存在理由を正面切って主張できなくなった私も、ふがいなさをかみしめながら、ただこうつぶやくばかりです：Malgraŭe! と。
(ザメンホフ祭の講演)



Mi vizitis Esperantajn aranĝojn en Koreio

Hideko Huĝimoto

En lastaj tagoj mi ĝoje ĝuas Esperanton kiel lasta-ŝancon en mia vivo, kvankam ankoraŭ mi ne sufiĉe posedas nian lingvon, kuraĝe luktas kun Esperanto. Ĉi-jare mi vizitis Koreion dufoje entute deksep tagojn.

La unua vojaĝo al Koreio estis en ĉi-januario (2013.1.17-28) dum dekdu tagoj, kio estis la unua sola vojaĝo al eksterlando por mi, kaj granda kuraĝo estis necesa. De la 18-a ĝis la 21-a en la urbo Ikusan, kie estis okazigita “La 8-a Internacia Esperanto renkontiĝo de Meditado”, en kiu ĉeestis 38 esperantistoj el Ĉinio, Hungario, Koreio, Litovio, Novzelando kaj Japanio.

Kaj sekvanse en sama loko okazis “La 3-a ILEI-seminario en Orienta Azio (ISOA), de la 21-a ĝis la 24-a, al kiu ĉeestis 41 esperantistoj ne nur el Orienta Azio sed ankaŭ el aliaj regionoj.

Post tio mi persone vizitis la urbon Mokpo, situanta un la suda parto de Koreio dum du tagoj kaj revenis al Seulo. En la 28-a tago mia avio glate surteriĝis al Nagoya.

La dua vojaĝo al Koreio estis lastamonte, mi vizitis karavane kune kun teinstruantoj de Urasenke el Japanio, restadis kvin tagoj en Seulo.



アイスランドを訪ねて

山本由紀子

北大西洋の真ん中にあるアイスランドで第98回エスペラント世界大会が今年2013年夏に開催された。自然エネルギーが多く使われ、又女性の地位が高い国であることで、この国に関心を持っていた。

7月15日セントレアから10時30分発の飛行機で出発。途中ヘルシンキで乗り換えその日の夕にケフラヴィク空港に着いた。小さなIceland Air の濃いオレンジ色の機体には ROLLS ROYCE と記されていた。空港で5万円を59,190アイスクローネに換えた。空港からは飛行機が発着する度に連携した空港バスが市内の各ホテルやバスターミナルまで、運行していた。

開会式までの5日間、Gさんとレイキャビクの街中をまわったり、ゴールデンサークルのツアーに参加した。あちこちから白い湯煙が昇っていた。地熱でトマトを栽培している所を見学した。ビニールハウス内には太い地熱のパイプが何本も地上をはっていた。アースクッキングの看板が出ているレストランがあった。地熱で熱せられた小石がいっぱい敷き詰められ、その上に鍋が置かれていた。また別の日に地熱を利用した発電所を見学した。施設の半分は80度の熱い湯を家々に送り、半分は、蒸気で電気を創っている。今では国の95%の家々がこれらの恩恵によくしている。平均的家庭で水、湯、電気代あわせて、1ヶ月約65ユーロとの説明だった。冬の路上の雪は地面の下を通っている地熱ですぐ溶けてしまう。見学コーナーに大きなガラスケースが2つ置いてあった。中には日本の兜と立派な剣が飾られていて、上に三菱エレクトリック company と赤字で書かれたプレートがのっていた。アイスランドは国の四分の一は火山地帯のためか、

随所に湯の池があったり、ぼこぼこ音をたてながら噴き出しているところがあった。またゲイシールも観光の目玉の一つだがまさにマグマが呼吸するとき間欠泉で、7～8分おきに30メートルほどの高さに噴き上げる。その水柱のまわりで多くの人たちが見ている。2度目にそこを訪れた時連続して3回も噴き上げる所を見ることができた。レイキャビックから50キロほどの所に巨大な露天風呂ブルーラグーンがある。夏も冬も楽しめる平均37度くらいでここも人気スポットの一つである。私も水着を着て半日ゆっくり過ごした。

この国では日本の山々と比べると樹木は少ないが、溶岩で出来た山々の奇岩や形が面白い。滝もあちこちあって、水が豊富だった。飲料水となりおいしい。水をボトルで買う必要も全くない。樹木は少ないが斜面いっばいに緑の牧草が敷き詰められ、遠くの山の頂には氷河の白が目立つ景色は美しかった。隣に座っていたKさんと「とてもいやされる景色ね。アイスランドもおすすめの国と思う。」と言葉をかわした。広々とした牧草地には牛、馬、羊などがゆったり草をはんでいた。アイスランドの馬はしっぽや前髪が長かった。海沿いの山の岩陰にアイスランドのパフィンが生息している。このパフィンはぬいぐるみ、カレンダーの絵、Tシャツのがら、おもちゃなどこの国の人気シンボルになっている。

ゴールデンサークルの途中のシングヴェトリル国立公園は特別な存在である。大地の裂け目が幾筋も走り、そこには岸壁が怪奇な表情で続いている。ここはユーラシアプレートと北アメリカプレートが生まれ東西に分離している場所である。この地に西暦930年世界で初めての民主議会が開かれた。ノルウェーから自由を求めて移住してきた人々が憲法を制定し民主政治を確立した。この場所に今でもアイスランドの国旗が掲げられていた。世界初と言えば女性大統領がアイスランドで1980年誕生し、16年間続いた。ある書店で歴代の大統領の写真が掲げられていた。フィンボガドゥティル女史の素敵な写真もあった。友人にエスペランチストもいてエスペラントには理解をもっていたとの説明を聞いた。女性の地位が高いのも関係があるのかなと思った。政治、経済、健康、教育の分野で男女平等の度合いを評価した結果総合でトップは5年連続でアイスランド。ちなみに日本は136ヶ国中105位。私はアイスランドの女性に尋ねてみました。男女の労働賃金に差はないか？　ほとんど差はなく、またどんどん縮まっているとのことだった。家事労働なども男女が同じようにしている。若い世代は特に顕著とのことだった。

エスペラント大会主催の遠足、大会後の旅行では、現地のガイドさんの説明をエスペランチストが通訳してくれる。どこの国の参加者でも理解できるのでやっぱり便利な言葉だといつも思う。もっとも私の理解はまだまだ不十分なのだが。

アイスランドは水が豊富で電気代がやすいのでアルミ工場やシリコン工場などがある。樹木がもっと多かったが、昔ノルウェーからの侵入者が切って使ってしまった。ガ

イドさんの話で特に印象に残ったのは、アイスランドは、軍隊はないし、これからも持たない、テロリストもいない、平和な国である、とはっきり言われたことだった。1986年世界の歴史を変えたレーガンとゴルバチョフ会談がこの国のこじんまりした2階家で行われ、冷戦が終わった。この国が会場に選ばれたのも納得いくように思った。あまりにさりげない小さな家なので、バスの中からその家を見た時もあっという間に通り過ぎてしまった。

レイキャビックの市内バスで1日券とか2日券を買うと、多くの美術館や観光施設が無料または大幅割引となり随分お得である。色々まわって私が特に気に入ったのは、レイキャビックmuseum の Asmundarsafn の素晴らしい彫刻と別の日に行った、これも彫刻で、Sigurjon Olafsson museum だった。街にそびえる教会はシンプルだが形は美しかった。高さ70メートルの展望台からレイキャビックの街が360度見渡せ赤い屋根とか家がびっしりときれいに並んでいるのが見えた。向こうの方には海が見えた。教会の前に大きな男の人の像が建っていた。この人がコロンブスより前にアメリカ大陸を発見したとのことだった。

大会終了の翌日は日曜日だった。大会後の旅行に参加のため、朝ホテルから荷物を持って会場のハルパまで移動しなければならなかった。短い距離だったがバスで行くつもりだった。前日バスの時刻を調べたところ、なんと日曜日の始発時間はすべて午後からだった。中には全く運行しない路線もあった。イスラエルでは土曜日には一日中飛行機も含めすべてのバスが全く運行してなかったのを思い出した。

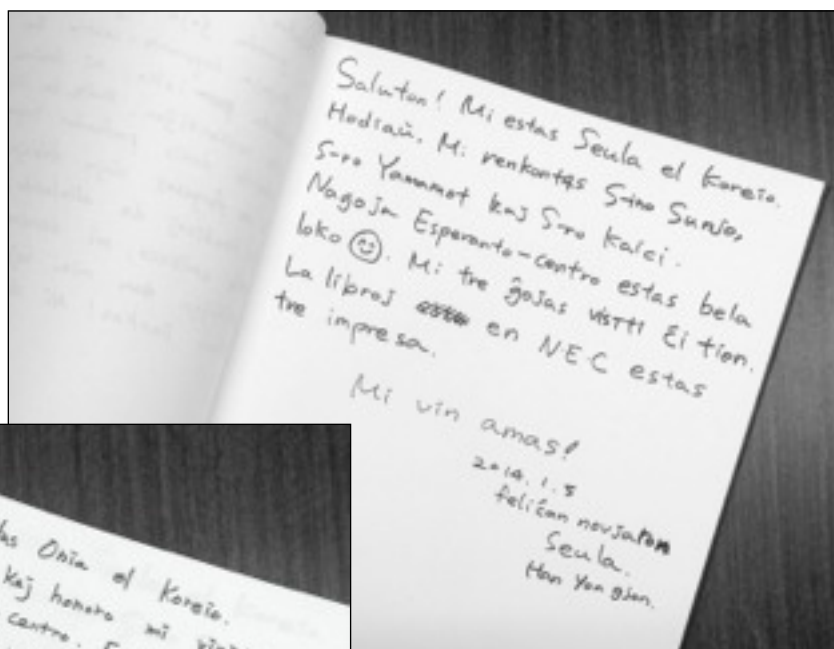
ホテルでは連泊の客にたいしてタオルの洗濯について協力のお願いの表示があった。ホテル協会と国の環境省の署名があった。たった1回使っただけのタオルにも洗うのに全国では、たくさんの水、何トンもの洗剤そして電気が使われるのが、おわかりでしょう、と書かれていた。新しいのが必要な時は使ったのを床に置いて下さい、とも併記されていた。一つ一つ真面目に環境のことを考え実行している国だと私は思った。

人口わずか約32万人の小さな国アイスランドを直接訪れることができとても良かった。冬には、首都レイキャビックからでもオーロラを見る事ができると言う。

今度はそれを見に行けるかな！

今年の東海エスぺラント大会は

5月18日、犬山市内で行うことになりました。犬山エスぺラント会で準備中です。



韓国のエスペランチスト、NECを訪問

1月5日、韓国人エスペランチスト女性（学生）2名が来訪しセンターで2時間程交流した。この日は前田可一、藤本日出子、山本修が応対し、交流後、恵那の藤本宅で2泊。

【写真】センター備え付けの Ora Libro にふたりのサイン。下は花ごよみで昼食のあと



TAGIŒO というCD

山田義

このエスペラント歌曲のCDは第54回東北エスペラント大会記念品として、山形エスペラントクラブ会長の国井兵太郎さんが制作した。磯部晶策さんが監修し、歌は山形大学教授でオペラ歌手の藤野祐一氏だ。CDやそのジャケットには製作年は書いてないが2013年の制作である。

男声の歌うエスペラント歌曲、ピアノ伴奏の丁寧で洒落た演奏が印象的だ。

あのエスペラント賛歌 La Tagiŉo で始まり、磯部さんの詞による Ho, Vivu Verda Stel' で終わる40分ほどのCDだ。シューベルトやメンデルスゾーンの歌曲、アイルランドなどヨーロッパの民謡、私も大好きな中山晋平の「砂山」が収まっている。

今まで自分自身で歌ったことない歌ではエスペラントの歌詞が聞き取れない歌もある。声の魅力、ピアノ伴奏の旋律の処理の仕方の素晴らしさを感じる。

エスペラントの詩の解釈が充分ではなかったように思う。日本のエスペラント界ではもっともよく歌われる歌、Ekirinte al Bembaŝa も入っているが、歌詞を知っている歌なのでこのオペラ歌手は若者の恋の物語をどのように表現するのだろうかに興味津々で聞き耳を立てて聴いた。ところが肝心の物語のクライマックスというべき4

番がない、3番で終わっている。どうしたのだろうか。録音後、雑音でも入っていることに気づいてやむなく割愛してしまったのか。オペラ歌手がこの歌の物語をよく知っていたら、このように聴かせどころを省いてしまって、よしとはしないであろうに、と思うのだが…。

ドイツ歌曲にはドイツ的な表現方法、日本歌曲には日本語のための発声方法が要求されるように、エスペラント歌曲にもエスペラントの単語の正しい発音だけではなく、その歌曲としての発想、発声などの研究は今後もなされていくべきだろう。

❖ Tagiŉo (KD), 編集 磯部晶策, 歌手 藤野祐一
一. 山形: 山形エスペラントクラブ, 2013 年.
プロのオペラ歌手がエスペラントで歌った歌曲 14 曲. 自分でも歌いたくなること請け合い.
約 40 分. Tagiŉo, 海辺にて, 歌の翼に, 二人の擲弾兵, グリーン・スリープス, ダニー・ボーイ, 赤い河の谷, ベンバシャの村に行ったとき (Ekirinte al Bembaŝa), 塹壕の中にて, ロモンドの湖, 愛して已まじ, 砂山, 別れの歌, 懐かしき緑の星よ.
2100 円 (2000)

La Revuo Orienta 2月号に入荷記事;
CDはJEIで扱っている。



Zamehofa Festo の報告

12月14日センターで開かれました【1面の写真】。磯部晶策さんも参加でした。

来年が40周年の名古屋エスペラントセンターは、当初のビルはあとかたもなく、現在のビルに移転してから、すでに10年を経ようとしている。二重の節目を前に今年のザメンホフ祭は、本拠地じたいを会場とすることにした。

ザメンホフに捧げるオカリナ曲「ハッピーバースデー」で幕を開け、山口真一による開会挨拶と進んで、後藤好美がアイスランドでの大会観光のスライド。つぎに「JELS 日本学生エスペラント連盟の盛衰」と題して森田明による、当事者による貴重な体験談であった。その隠された全貌があらためて紙碑となることが期待される。休憩をはさんで、山口真一によるネパール訪問のスライド③。やはり一年の締めくくりはエスペラントで、ということで藤本日出子「日韓中のお茶の大会のことなど」。なんと単独渡航・民泊ともに初体験となったというから意外。ここまでの出席は16名。

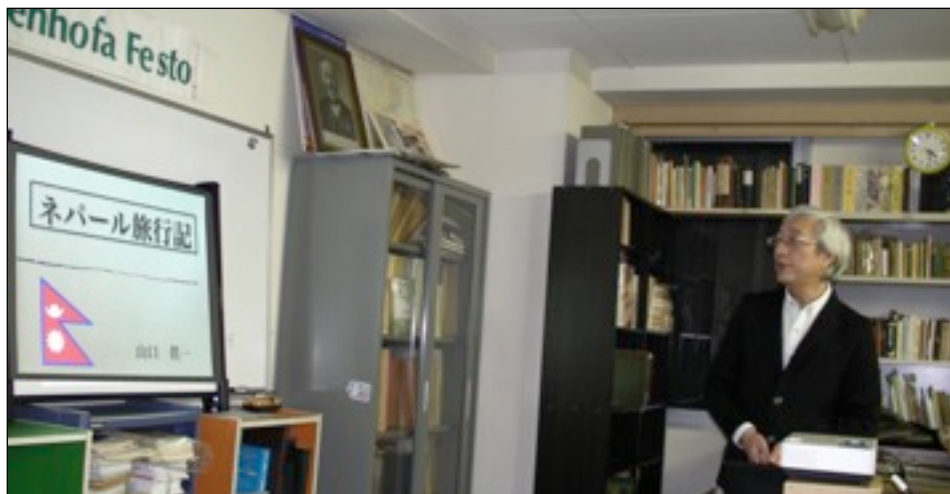
記念撮影のあとは、尾張藩御用達もつとめた格式のある仕出し膳を前にして、自己紹介、アコーディオン演奏①、歌唱などをして宵は更けていった。懇親会の出席は15名、全体では17名。〈猪飼吉計〉



①



②



③

☆ 2001年発行の ADORU というエスペラントによる讃美歌集があり、その中にザメンホフの訳 (1891年) の歌がこの歌集の補遺として載せてある【楽譜1】。アイヒェンドルフの詩を訳した“La gaja migranto”だ。ドイツの曲だ。大自然の素晴らしさと永遠の恵みを歌っている。これは、ザメンホフがエスペラントをさらに推し進めるための励ましと祈りを込めた思えてならない。

ところが原作は4番までであるが、ンホフは訳していない。なぜなのか。歌詞をネットで拾ってドイツ語を森田明さんに尋ねてみた。2番を除いて、1〜4番は美しい大自然の中に出て行って、神のみわざのすばらしさに触れろ！と呼びかけていますが、2番は家の中にこもってばかりいて、日々の苦勞に追われるだけの生活をしている人をすこし揶揄しています。これだけがほかと違うので、ザメンホフは訳さなかった、のかもしれないとのこと。そして、ドイツの国語の教科書には、必ず載っている

歌だそう。小坂狷二著『エスペラント講習用書』にも載っている、次頁はその【楽譜2】だ。“La gaja migranto”として BELTONO 2009年発行の“Ho, mia kor”にも採用している。

ネットを調べていると訳者は Hemza = L.L. Zamenhof と明かすページがある。そして2011年になって Cezar という人が今まで訳されていた2番の歌詞をエスペラントに訳し *eternity* に載せてある。しかし *amenta Krestomatio*”には *goja* では *gaja migranto* である。

この歌のメロディーは [Wem Gott will rechte Gunst erweisen - MP3, MIDI Reinhören und abspielen](#) を開くと、とてもいい音質で聞けることができる。

山田義

【楽譜1】

1. Se do-nas Di' al vi fa-vo-ron,
 1. Wem Gott will rech-te Gunst er-wei-sen,
 Li sen-das vin for el la dom',
 den schickt er in die wei-te Welt;
 por—mon-tri Si-an mir-la-bo-ron,
 dem—will er sei-ne Wun-der wei-sen
 la be-lan mon-don, al la hom'.
 in Berg und Wald und Strom und Feld.

Jozefo de Eichendorff

La goja migranto

Se donas Di' al vi favoron,
 Li sendas vin for el la dom',
 Por montri sian mirlaboron,
 La belan mondon, al la hom'.

Se kuŝas hejme nur-pigruloj,
 ĝojigas ne aŭror' en san',
 jen nuras sci' pri beboluloj,
 pri zorgoj, ŝarg', mizera pan'.

De l' montoj riveretoj fluas,
 Alaŭdoj kantas super mi;
 Mi ankaŭ gajan kanton bruas
 Al la tutmonda harmoni'.

Al Dio fidas mi kun ĝojo.
 Li zorgas pri la tuta ter':
 Li ankaŭ min, sur mia vojo,
 Eterne gardos de danĝer'.

tradukis Hemza (L.L.Zamenhof) en la jaro
 1891,
 Cezar tradukis la duan strofon en la jaro
 2011.

『住まいの健康生活術』とエスペラント

鈴木善彦

昨年12月24日付けで「保健所活用おすすめ隊があなたに贈る『住まいの健康生活術』」のタイトルの本を出版しました。私は昨年3月に38年間勤めた名古屋市を退職したのですが、そのほとんどを保健所で過ごし、仕事から得た経験や知識を何らかの形でまとめたいと思ったのがきっかけです。

そのため、内容は保健所の仕事に関するもので、特にエスペラントとは関係ありません。しかし、エスペ란ティストとして、何らかの形でエスペラントについて言及したいとは常日頃から思っていることですので、この本でも3カ所に「エスペラント」の文字を入れてあります。

1つは、「20. ペット（犬）」のプロログで、「家に連れ帰り、ヴェルダ（エスペラント語で緑の意味）と名付けました。」です。

2つ目は、「25. 家庭内の事故」のプロログで、「私の大学時代のエスペラント研究会の友人の一人息子は、大学4年を目前にした3月末、自宅の浴室で亡くなりました。」です。

3つ目は、この本では、専門用語が多いので、少しでも読者の理解を助けられるよう最後に用語集をつけたのですが、その中にエスペラントも付け加えました。

エスペラントについて説明するとき、似てはいても、ひとりひとりその表現は異なると思われますし、その人のエスペラントに関する思いもそこには含まれるのではないのでしょうか。私は、次のように説明文を書きました。

「エスペラント語

1887年当時ロシアに支配されていた現在のポーランドで、眼科医のザメンホフが創案した人工語です。民族や言語の違いによる争いを無くそうと、ラテン語を基に規則性に富み学習しやすく作られており、国際共通語ともいいます。日本では二葉亭四迷が初めて教科書「世界語」を著し紹介しました。」

「語」が4カ所出てきます。人工語、ラテン語、国際共通語、世界語です。それでどのような言語かを理解してもらいたいと思いました。また、エスペラントの理念としての「争いを無くそう」の言葉を入れました。

短い文章ですが、自分なりにエスペラントへの思いを表現したつもりです。

初めにも書いたように、この本はエスペラントとは全く関係ありませんが、健康的な生活を送るために参考になるものと（手前味噌ですが、）思っています。

機会があれば読んでいただければと思います。内容は、本の帯に「アレルギー・害虫被害から感染症・災害まで…。住まいにひそむ〈危険〉をこれで解決!」とありますが、内容をよく表していると思います。

定価（本体1,400円＋税）、サイズ（21cm／204p）、出版社（風媒社）です。

